

# マグノリアの木

宮澤賢治

青空文庫



霧きりがはじめじめ降ふっていた。

諒りょうあん 安あんは、その霧きりの底そこをひとり、険けわしい山谷さんやうの、刻きざみを渉わたつて行いきました。

沓くつの底そこを半分踏ふみ抜ぬいてしまいなからそのいちばん高い処ところからいちばん暗くらい深ふかいところへまたその谷やの底そこから霧きりに吸すいこまれた次つぎの峯みねへと一生いっせいけんめい伝つたつて行いきました。

もしもほんの少すこしのはり合あいで霧きりを泳およいで行くことができたなら一つの峯みねから次つぎの巖いわへずいぶん雑ぞう作さくもなく行いけるのだが私はやつぱりこの意い地じ悪わるい大きな彫ちよう刻こくの表ひよう面めんに沿そつてけわしい処ところではからだからだが燃もえるようになり少すこしの平たいらなところではほつと息いきを

つきながら地面じめんを這はわなければならぬと諒安は思いました。

ままったた 全く峯にはまつ黒のガツガツした巖つめが冷たい霧ふを吹いてそらうそぶき折せ角かくいっしんに登のぼって行ってもまるでよるべもなくさびしいのでした。

それから谷の深い処こゝまには細かなうすぐろい灌かんぼく木ぼくがぎっしり生えて光を通すことさえも慳けん貪どんそうに見えました。

それでも諒りょう安あんは次つぎから次つぎとそのひどい刻きざみをひとりわたつて行きました。

何べんも何べんも霧きりがふつと明るくなりましたうすくらくらくなりました。  
した。

けれども光は淡あわく白いたく痛いたく、いつまでたつても夜にならないよ

うでした。

つやつや光る竜の髯のいちめん生えた少しのなだらに来たとき

諒安はからだを投げるようにしてとろとろ睡ってしまいました。

（これがお前の世界なのだよ、お前に丁度あたり前の世界なの

だよ。それよりもっとほんとうはこれがお前の中の景色なのだよ

。）

誰かが、或いは諒安自身が、耳の近くで何べんも斯う叫んでい

ました。

（そうです。そうです。そうですとも。いかにも私の景色です。

私なのです。だから仕方がないのです。）諒安はうとうと斯う返

事しました。

(これはこれ

まど こだち  
 惑う木立の

中ならず

しのびをならう

春の道場)

どこからかこんな声のはつきり聞えて来ました。 諒安りようあんは眼め

をひらきました。霧きりがからだにつめたく浸しみ込こむのでした。

ままった 全く霧は白く痛いたりゆうひげの髯の青い傾斜けいしやはその中にぼんやりかす

んで行きました。諒安はとつとかけ下りました。

そしてたちまち一本の灌木かんぼくに足をつかまれて投げ出なすように

倒たおれました。

諒安はにが笑いをしながら起きあがりました。

いきなり険しい灌木の崖が目の前に出ました。

諒安はそのくろもじの杖にとりついでのぼりました。くろもじはかすかな匂を霧に送り霧は俄かに乳いろの柔らかなやさしいものを諒安によこしました。

諒安はよじのぼりながら笑いました。

その時霧は大へん陰気になりました。そこで諒安は霧にそのかすかな笑いを投げました。そこで霧はさつと明るくなりました。

そして諒安はとうとう一つの平らかな枯草の頂上に立ちました。

そこは少し黄金いろでほつとあたたかなような気がしました。

諒安は自分のからだからだから少しの汗あせの匂においが細い糸のようになつて霧の中へ騰のぼつて行くのを思いました。その汗という考から一疋びきの立派りっぱな黒い馬がひらつと躍おどり出して霧の中へ消きえて行きました。霧が俄にわかにゆれました。そして諒安りょうあんはそらいつぱいにきんきん光ただよつて漂こぼう琥珀こはくの分子ただよのようなものを見ました。それはさつと琥珀から黄金かわに變かりまた新しん鮮せんな緑みどりに遷うつつてまるで雨よりも滋しげく降ふつて来るのでした。

いつか諒安の影かげがうすくかれ草の上に落おちていました。一きれのいいかおりがきらつと光きりつて霧とその琥珀との浮遊ふゆうの中を過すぎて行きました。

と思うと俄にわかにぱつとあたりが黄金に變かりました。



霧が融けたのでした。太陽は磨きたての藍銅鉋のそらに液体のようにゆらめいてかかり融けのこりの霧はまぶしく蠟のように谷のあちこちに澱みます。

（ああこんなけわしいひどいところを私は渡つて来たのだな。けれども何というこの立派さだろう。そしてはてな、あれは。）

諒安は眼を疑いました。そのいちめんの山谷の刻みにいちめんまっ白にマグノリアの木の花が咲いているのでした。その日のあたる場所は銀と見え陰になるところは雪のきれと思われたのです。

（けわしくも刻むところの峯々にいま咲きそむるマグノリアかも。）斯う云う声がどこからかはつきり聞えて来ました。諒安

は心も明るくあたりを見まわしました。

すぐ向うむこに一本の大きなほおの木がありました。その下に二人の子供こどもが幹みきを間にして立っているのです。

（ああさつきから歌っていたのはあの子供らだ。けれどもあれはどうもただの子供らではないぞ。） 諒りょう 安あんはよくそつちを見ました。

その子供うすものらは羅らをつけ 瓔よう 珞らくをかざり日光に光り、すべて断だんじ食きのあげがたの夢ゆめのようでした。ところがさつきの歌はその子供らでもないようでした。それは一人の子供がさつきよりずうつと細い声でマグノリアの木の梢こずえを見あげながら歌い出したからです。

「サンタ、マグノリア、

枝えだにいつぱいひかるはなんぞ。」

向むこう側がわの子が答えました。

「天とに飛びたつ銀ぎんの鳩はと。」

こちらの子がまたうたいました。

「セント、マグノリア、

枝えだにいつぱいひかるはなんぞ。」

「天あまからおりた天あまの鳩はと。」

諒りやう安あんはしずかに進すすんで行いきました。

「マグノリアの木は寂じやく静じゆう印いんです。ここはどこですか。」

「私わたしたちにはわかりません。」一人ひとりの子がつつましく賢かしこそうな

眼めをあげながら答えました。

「そうです、マグノリアの木は寂静印です。」

強いはつきりした声が 諒りょう安あんのうしろでしました。諒安は急いそいでふり向きむきました。子供らと同じなりをした丁度ちやうど諒安と同じくらいの人がまっすぐに立ってわらっていました。

「あなたですか、さつきから霧の中やらでお歌いになった方は。」

「ええ、私です。またあなたです。なぜなら私というものもまたあなたが感かんじているのですから。」

「そうです、ありがとう、私です、またあなたです。なぜなら私というものもまたあなたの中にあるのですから。」

その人は笑わらいました。諒安と二人ははじめて軽かるく礼れいをしました。

「ほんとうにここは平らたいですね。」諒安はうしろの方のうつくしい黄金の草の高原を見ながら云いいました。その人は笑わらいました。

「ええ、平らです、けれどもこの平らかさはけわしたいさに対たいする平らさです。ほんとうの平らさではありません。」

「そうです。それは私がけわしい山谷を渡わたったから平らなのです。」

「ごらんなさい、そのけわしい山谷にいまいちめんちめんにマグノリアが咲さいています。」

「ええ、ありがとう、ですからマグノリアの木は寂じやく静じようです。

あの花びらは天の山羊やぎの乳ちちよりしめやかです。あのかおりは覺かく者やたちの尊とうとい偈げを人ひとに送おくります。」

「それはみんな善ぜんです。」

「誰だれの善ですか。」諒安りやうあんはも一度いちどその美うつくしい黄金おうごんの高原こうげんとけわし

い山谷さんぎやうの刻きざみの中のマグノリアとを見みながらたずねました。

「覚者かくしやの善です。」その人の影かげむらさきは紫むらさきいろで透とうめい明めいに草くさに落おちてい  
ました。

「そうです、そしてまた私わたしどもの善ぜんです。覚者かくしやの善ぜんは絶ぜつ対たいです。

それはマグノリアの木きにもあらわれ、けわしい峯みねのつめたい巖いわに

もあらわれ、谷やの暗くらい密みつ林りんもこの河かわがずうつと流ながれて行いつて汜は

濫らんをするあたりあたりの度たび々たびの革かく命めいや饑き饉きんや疫やく病びようやみんな覚

者しやの善ぜんです。けれどもここではマグノリアの木きが覚者かくしやの善ぜんでまた

私わたしどもの善ぜんです。」

諒安とその人と二人はまた<sup>うやうや</sup>恭しく礼をしました。





# 青空文庫情報

底本：「風の又三郎」角川文庫、角川書店

1996（平成8）年6月25日発行改訂新版

底本の親本：「新校本 宮澤賢治全集」筑摩書房

1995（平成7）年5月発行

入力：浜野智

校正：浜野智

1999年1月31日公開

2008年8月4日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

# マグノリアの木

宮澤賢治

2020年 7月13日 初版

## 奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しむ青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>